

6. 体系化・組織化

- (18) 事業従事者の対応の質を担保するために、様式やマニュアル、基準を作成・更新し、共有する
- (19) 事業の要項を作成することで組織内での事業の位置づけを明確にする
- (20) 施策全体の中での事業の位置づけを確認し関連する事業を連動させて進行管理・調整を行う
- (21) 協働・波及を意図して地域からメンバーを選定し、協議会などのフォーマルな場を設置する

事例6：母子健康手帳交付時の妊婦健康相談事業を担当する小林保健師の話

(事例6-1)

小林保健師の所属する自治体では、妊娠届出受理と母子健康手帳の交付を保健センターで行っており、その流れで、妊婦健康相談を実施している。妊婦健康相談は保健衛生係の窓口で随時行われ、事業担当の小林保健師だけでなく、同じ係内の常勤保健師3名と非常勤保健師1名、管理栄養士1名、歯科衛生士1名の合計7名で対応することになっている。

妊婦健康相談の窓口対応は、その時に対応できる人が行うことになっているが、歯科衛生士は、主担当ではないことや相談対応に苦手意識があることから、積極的ではない。小林保健師は何とかしたいと考えた。

【設問 6-1】小林保健師の立場から

あなたは、上記の4項目のどの項目を意識して、どのような取り組みをしますか？

～回答例：項目(18)を意識して～

小林保健師は、歯科衛生士だけでなく誰でも自信をもって同じように対応できるよう、窓口対応マニュアルを作成することにした。技術項目(18)「事業従事者の対応の質を担保するために、様式やマニュアル、基準を作成・更新し、共有する」を意識し、この人だから出来るというのではなく、窓口対応に従事するスタッフが一定の質を保てるように、マニュアルを作成した。マニュアルには、必ず把握することや伝えることをチェックできるような記録票も含めた。

また、妊婦健康相談の目的には、継続支援者を把握し確実に継続支援を行うことが含まれている。そのため、マニュアルについては、看護職だけでなく管理栄養士や歯科衛生士といった他職種も同じ目線で実施できるように、何度も話し合い修正や更新を行った。

また、継続支援の判断については、アセスメントマニュアルを作成し、課内の研修会にて共有した。

～回答例：項目(19)を意識して～

小林保健師は、歯科衛生士から「私は主担当ではないから……」という発言を聞き戸惑ってしまった。

そこで、技術項目(19)「事業の要項を作成することで組織内での事業の位置づけを明確にする」を意識し、妊婦健康相談の要項を妊婦健康相談に関わる全職員で話し合い作成した。その際に、妊娠期からの健康づくりを通して、今後の母子保健対策を考える出発点として、妊婦健康相談を位置づけることを明記し、母子保健事業全体を意識できるようにした。歯科衛生士は、妊婦健康相談で健康問題の傾向を把握し、パパママ学級で行う歯科指導に反映させるとともに、妊婦健康相談で歯みがきに関する情報も追加してはどうかと積極的に意見を言うようになった。

(事例6-2)

小林保健師を中心に妊婦健康相談の要項・マニュアル・記録票が作成され、1年以上がすぎた。同じ係内の常勤保健師3名と非常勤保健師1名、管理栄養士1名、歯科衛生士1名の合計7名で、その都度気になったことを協議しながら妊婦健康相談事業の取り組みが行われた。小林保健師の上司は、妊婦健康相談に関わる職員同士で継続支援の必要な妊婦の情報交換等を積極的に行っていると感じていた。しかし、事業の企画・評価については、主担当の小林保健師のみが行っていることが気になっていた。

【設問 6-2】小林保健師の上司の立場から

あなたは、上記の4項目のどの項目を意識して、どのような取り組みをしますか？

～回答例(20)を意識して～

小林保健師の上司は、技術項目(20)「施策全体の中での事業の位置づけを確認し関連する事業を連動させて進行管理・調整を行う」を意識し、自治体の総合計画において重点課題であることを確認した。その上で、本事業を含む母子保健事業について、年度末に作成する今年度事業評価と次年度計画を母子保健関係者7名で協議し、冊子にまとめた。冊子は係内で相談内容や妊婦の健康課題を共有すると同時に、自治体総合計画において関連する企画財政課や社会福祉課等の部署に、どのような人がどのような支援を求めているのかを提示できるように妊婦健康相談を取りまとめるようにした。

～回答例(21)を意識して～

この事業は、小林保健師が担当になってから、自治体内2か所ある産科病院に年度当初に妊娠届出書を配布し説明をしている。また、気になる妊婦の課題等については情報共有し、予防的な段階から関係機関との連携を重視する取り組みを行っている。長らく小林保健師が本事業の主担当であったため、自治体内にある産科病院とのやりとりは、小林保健師に一任している。小林保健師の上司は、今後、小林保健師が異動で交代したり、この事業に関わる関係者の窓口の方が交代したりしても事業が継続できるようにしたいと考えた。そこで、技術項目(21)「協働・波及を意図して地域からメンバーを選定し、協議会などのフォーマルな場を設置する」を意識し、妊婦や産婦の健康に関わる産科病院や、歯科医院の医師や家庭相談員をメンバーとした協議会を設置した。